

地区別復興構想  
中島地区

## 目次

地区別復興構想の策定にあたって-----	2
七尾市戦略的復興プランとの関連性-----	3
<b>1 中島地区の現況の整理-----</b>	<b>4</b>
<b>2 地域の課題-----</b>	<b>8</b>
<b>3 復興まちづくりの方針-----</b>	<b>10</b>
<b>4 復興まちづくりに向けて考えられる施策-----</b>	<b>12</b>

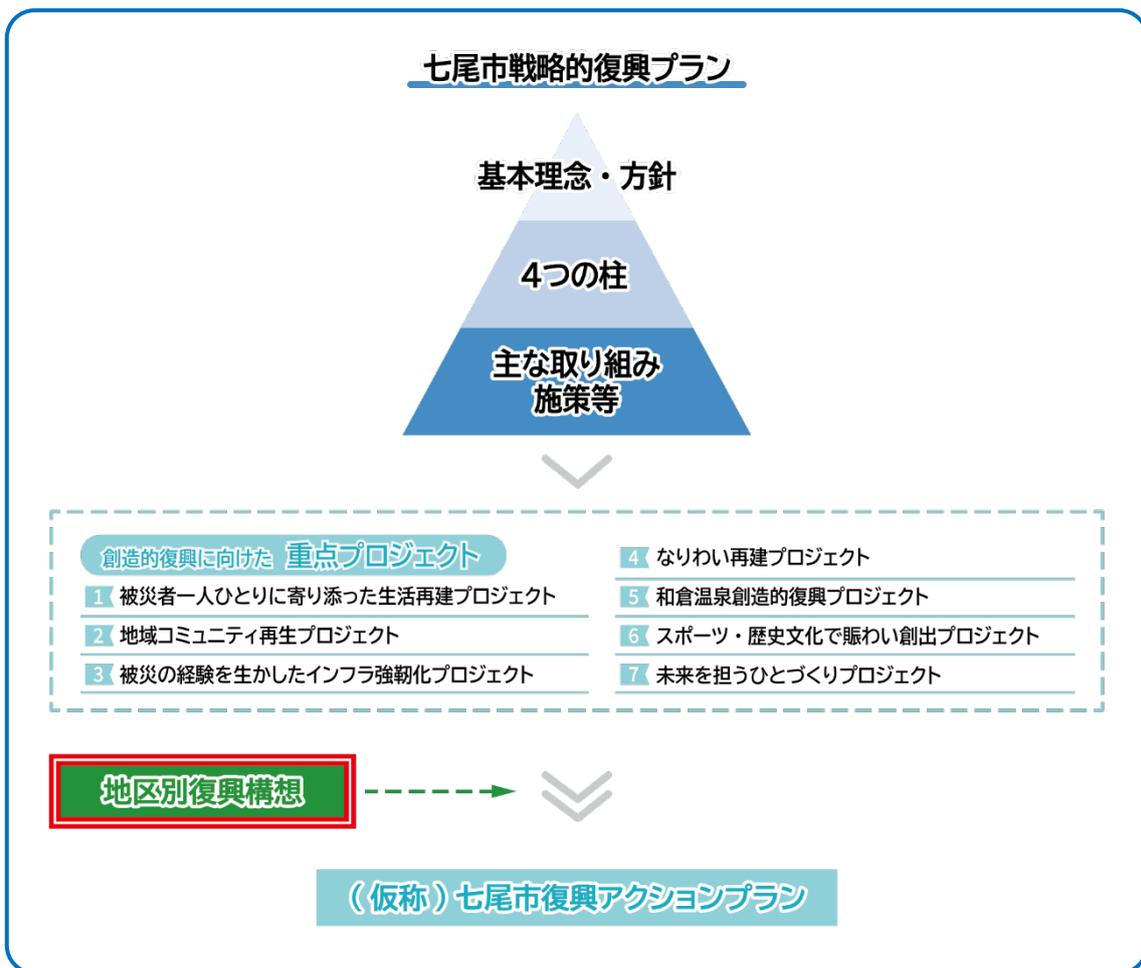
この構想は、復興に向けた課題と方向性を整理したものであり、今後七尾市として事業化の検討を行います。

## 地区別復興構想の策定にあたって

令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた本市では、震災からの復興に向け、さらに魅力あるまちへ発展していくため、令和7年2月に「七尾市戦略的復興プラン」を策定しました。

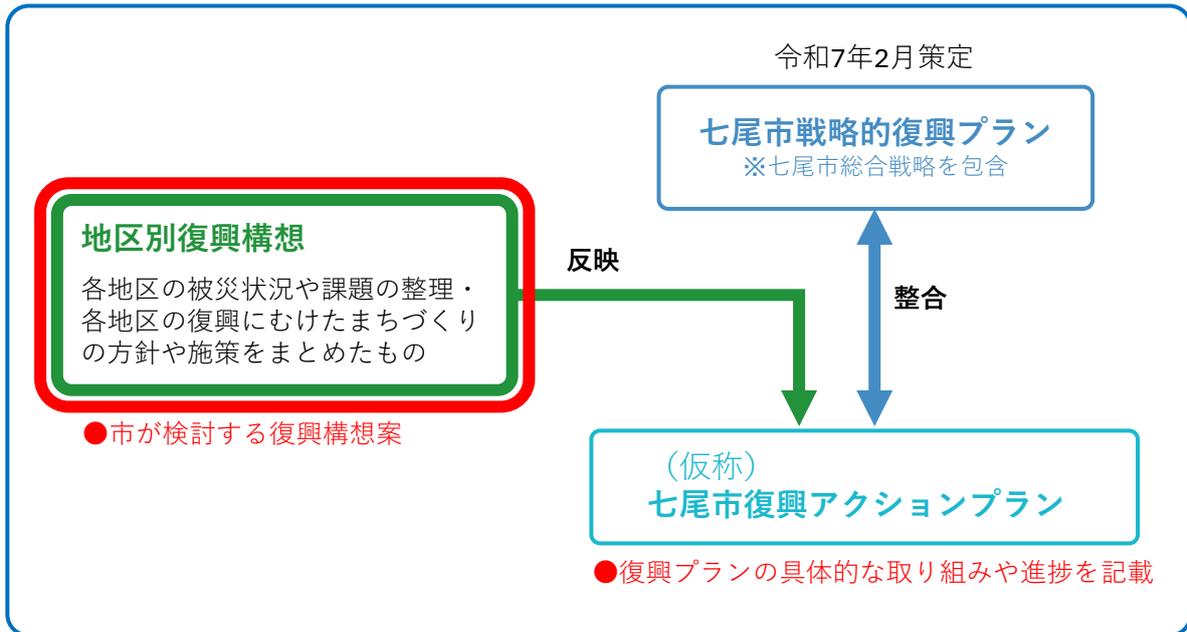
復興のまちづくりの将来像として「すべての暮らしと営みに幸せを～みんなの笑顔が輝くまち～」を掲げて、市民一人ひとりが主体となり、市民と行政が力を結集し、創造的かつ戦略的復興に向けて多くの取組みを実施する必要があります。

これらの取組みの着実な推進に向けて、市内全15地区の復興に向けた課題と方向性を整理した「地区別復興構想」を策定しました。本構想をもとに地域の復興への取組みを進めていきます。



## 七尾市戦略的復興プランとの関連性

市内の各地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。



今年度は、地区単位での復興を推進するため、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取り組み」に対して意見を伺いました。



# 1 中島地区の現況の整理

## (1) 被災状況

七尾市の北部に位置し、令和7年10月末時点で人口4,556人の地区である。平成16年10月に、七尾市・田鶴浜町・中島町・能登島町が合併し現在の七尾市となる。

令和6年能登半島地震により、被災した住家の約33%が半壊以上の被害を受け、公共施設も約40施設が建物の損傷、地割れなどの被害を受けた。また、斜面崩壊の被害や道路の被害が、他地区と比べて大きい地区であり、それにより一部集落の孤立が発生した。そのほかの被害は、以下のとおりである。

住宅	被災した住家の約33%が半壊以上の被害
公共施設	13施設で壁の損傷、6施設で設備の故障、その他19施設で隆起、沈下、地割れ、漏水、雨漏りなどの被害
道路	中島町西谷内周辺で被害が多く発生
護岸・河川	中島漁港(小牧地区)周辺水路で護岸崩落が発生 中島漁港(深浦地区)の岸壁や用地にひび割れ、道路・水路に段差が発生
公園・緑地	七尾市児童公園で駐車場の地割れ・隆起が発生 長浦うるおい公園の施設で壁・窓・瓦破損 きのぼし公園で東屋の全壊、藤瀬霊水公園の施設で棟瓦破損などの被害
その他	斜面崩壊が49か所で発生 ため池被害が11か所で発生

## (2) 各種災害におけるリスク

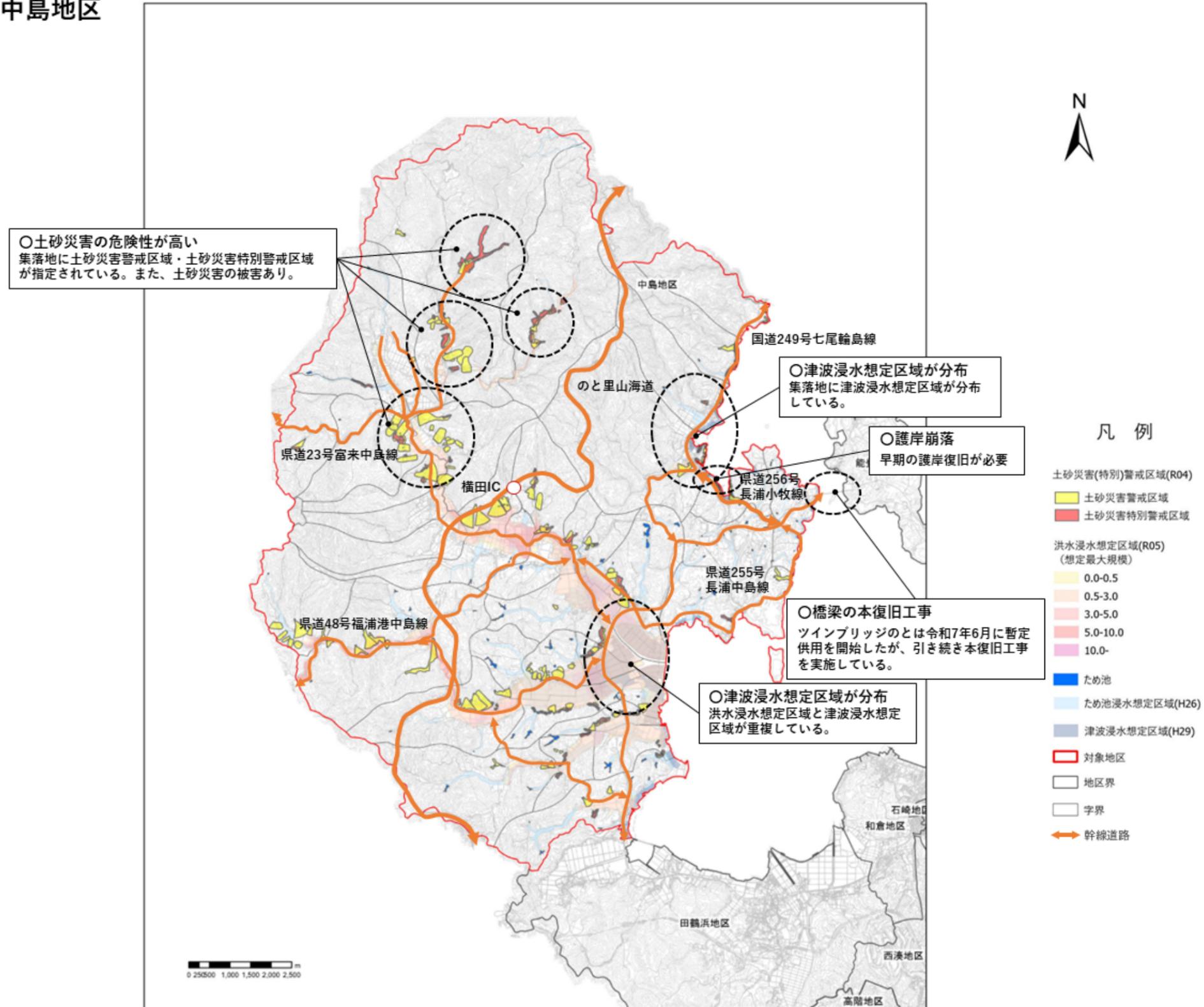
横見・田岸・小牧・深浦・瀬嵐地域では、地区の一部が土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されており、発災時に避難所の1階部分が使用できない可能性がある。

指定緊急避難場所に指定されている「中島お祭り資料館・伝承館」は、崖崩れや土石流、地滑りには対応しているものの、洪水・内水には対応していない緊急避難場所であり、大雨時に実質的に活用できない避難場所となる可能性がある。また、指定緊急避難場所の「中島文化センター（能登演劇堂）」は、洪水・内水時の活用を想定されている避難場所であるが、想定最大規模の洪水では浸水が発生する可能性がある。

その他、以下のような災害リスクがある。

津波	海岸沿いで0～3.3m程度の津波による浸水リスクが想定 特に、能登中島駅周辺で浸水範囲が広い。
洪水	熊木川の氾濫により、浸水リスクが想定 (横田、山戸田、宮前、上町、中島、浜田、崎山、奥吉田、筆染) 震災後、豪雨時に日用川の氾濫が発生
土砂災害	河内川・熊木川・日用川を挟む山側斜面と海岸沿いの斜面(横見・田岸・小牧・深浦・瀬嵐地域)で土砂災害リスクが想定
その他 (ため池氾濫など)	76か所のため池で氾濫リスクが想定 南部の海側平野部で液状化リスクが想定

現況分析 | 中島地区





## 2 地域の課題

### (1) 住宅 | 木造家屋の密集と被災、空き地・空き家の増加と管理

大部分を山地が占め国道や県道沿い、湾岸部には多くの住宅が密集している。木造住宅の多くは、耐震・防災性への課題があり、耐震補強などの対策が求められる。また、震災前から空き地や空き家が増えている点に加えて、公費解体後の空き地の増加と管理も課題である。

### (2) 暮らし | 生活利便性の向上と子育て環境の充実

地域内の店舗が限られている。高齢化・免許返納後の移動の困難も重なり、特に高齢者を中心に買い物の場所と移動手段に課題を抱えている。地区内での暮らしが継続できるよう、地域に住む人同士が助け合える仕組みづくりや生活利便性の向上が必要であり、さらなる地域コミュニティの強化が課題である。

### (3) 仕事 | 農業・漁業の担い手不足と能登演劇堂の活用

農業および漁業が盛んな地区であるが、担い手不足や高齢化といった課題がある。また文化拠点である能登演劇堂は、震災後も多くの観光客が訪れ、市内外から集客している一方で、集客した人を地区内に留めるための施設や取組みが不十分であるため、他の施策と組み合わせるなど一体となって地域の活性化につなげる取組みが必要である。

### (4) インフラ・防災 | 防災活動、避難経路の見直し

震災時、斜面倒壊により道路が遮断され、一部集落が孤立状態となった。集落地の一部や幹線道路周辺が、土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されている。そのため、新たな災害が発生した場合、ライフラインやインフラなどの被害が発生する危険性が高いと言える。

また、災害時の地域の防災活動や避難経路の見直しなど、ソフト面での防災力の向上も求められる。

### (5) 交通 | 移動手段の確保、コミュニティバスの維持

地区内交通として「中島げんきバス」が走行しており、利用者数と運行維持のバランスが課題である。将来的な人口減少に伴い、コミュニティバスの維持が難しくなる懸念もあることから、オンデマンドバスなどで地区の必要な交通需要に応えていくことが必要である。



## 3 復興まちづくりの方針

文化拠点である能登演劇堂を有し、海と山を活かした漁業や農業が行われてきた。これらの資源を活用しながら地域と行政が連携して復興に向けた取組みを推進していく。

### 復興まちづくりの基本方針

#### (1) 住宅 | 居住の考え方

被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けた取組みを進めていく。今後、空き地や空き家の増加が見込まれることから、地域と行政で連携した空き家バンク制度の活用促進などを旨とする。

#### (2) 暮らし | 生活利便性向上の考え方

地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要であり、移動販売や買い物支援サービスなど地域の実情に沿った施策の実現を目指す。また、子どもが安心して遊べ、教育を受けられる環境整備に努める。地元出身者など地縁のある人を中心に祭りを通じたコミュニティの強化、関係人口の向上を図る。

#### (3) 仕事 | 産業の考え方

農業および漁業をこれからも継続できるよう、担い手確保への支援や再建への補助などを行う。また、能登演劇堂を地域の核としたにぎわい創出を図るために、イベント時の地区外からの集客を利用する仕組みについて検討する。これらの取組みによって、雇用の安定と地域経済の活性化を目指す。

#### (4) インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方

町会単位での安全・安心確保に向けた取組みを地域と行政で連携して考える。地域の自助・共助を強化しながら、住まいの再建や耐震改修により防災性の向上を図り、地区全体としての防災力向上を実現する。

#### (5) 交通 | 交通の考え方

コミュニティバス「中島げんきバス」の継続運行を図りながら、今後さらに進行する高齢化と地域経済の規模縮小に合わせた交通の在り方として、デマンド型交通など地域に必要な移動手段の確保を検討する。



## 4 復興まちづくりに向けて考えられる施策

令和7年2月に策定した「七尾市戦略的復興プラン」（計画期間：令和6～10年度）は、市全体の復興に向けた方向性を示したものである。そのため本構想は地区単位での復興を推進するものであり、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施した。

全2回の意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺った。

### 意見交換会の概要

実施回	実施日	意見交換の内容
第1回	2025/5/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後の地域づくり協議会の活動状況について</li> <li>・地域が考えるまちづくりの現状と課題について</li> <li>・地域がイメージする20年後のまちづくりについて</li> </ul>
第2回	2025/7/25	重要と考える復興に向けた取組みについて



地域づくり協議会との意見交換会の様子

地域からの意見のなかで、優先順位の高い取組みを、「復興まちづくりに向けて考えられる施策」として以下に記載する。これらの施策と次頁の地図に整理された意見については、関係各課と協議のうえ、事業化に向けた検討を行う。

## 復興まちづくりに向けて考えられる施策

### (1) 防災 | 避難時に利用する施設の整備・強化【インフラ・防災】

災害時には、コミュニティセンターや体育館などの公共施設を、避難所として適切に機能させることが求められる。本地区は集落が分散していることから、特に災害時に利用できる避難場所の整備が求められる。

そのほかにも、避難所の耐震化や冷暖房整備、防災倉庫の設置などのハード整備だけでなく、普段から避難訓練を実施し地域コミュニティを維持するなどの対応強化が求められる。

### (2) 交通 | 新たな交通サービス導入・強化【交通】

コミュニティバス「中島げんきバス」が運行しているが、今後、公共交通の人員不足などにより地域の交通手段が失われることも考えられるため、それに代わる新たな交通サービスの導入が必要である。

### (3) 子育て | 子どもの遊び場づくり【くらし】

子どもの遊び場が不足しており、地域からのニーズが高い。特に、天候や季節、気温に左右されず、いつでも利用できる屋内遊び場の整備が求められている。

### (4) 生活 | 移動支援（生活支援）の強化【くらし・交通】

買い物をできる場所が少なく、車を運転できない住民のための買い物支援、移動支援が求められている。特に、移動販売については、現在も民間事業者により実施されているが、利用しやすい環境を構築するための支援が求められている。

### (5) なりわい | なりわい再建に向けた支援【仕事】

地区に人が住み続けるためには働く場所が重要である。働く場所の確保にあたり、なりわいの再建や企業の誘致が求められる。本地区には、能登演劇堂があり地区外の人々が訪れる施設ではあるものの、来訪客が立ち寄れる場所が少ないため、能登演劇堂の集客力を活かしたにぎわいづくりを行っていく必要がある。

地区別意見整理図 | 中島地区

※この地図は、意見交換会の中で出た意見を記載したものです。

**●ソフト関連の意見**

**住宅**

- ① 空き家バンク制度の活用促進
- ② 住宅の耐震・防火性向上のための改修促進
- ③ 空き地・空き家の管理支援
- ④ 移住促進支援

**くらし**

- ⑤ 地区内の教育環境の向上
- ⑥ 移動販売や買い物支援サービスの導入検討
- ⑦ 害獣被害防止の支援
- ⑧ 若い世代を含めた祭りを中心としたコミュニティ形成支援

**仕事**

- ⑨ 企業誘致支援
- ⑩ 地元出身者とのつながり構築支援
- ⑪ 民泊施設の整備支援

**インフラ・防災**

- ⑫ 通信インフラの整備支援

**交通**

- ⑬ 中島げんきバスの運行支援
- ⑭ 路線バスの運行支援
- ⑮ 地域公共交通に関する検討



(1) いやしの湯の復旧

**●地区全域にまたがるハード関連の意見**

<b>くらし</b>	<b>仕事</b>
(2) 道の駅整備の可能性検討	(5) 牡蠣養殖など漁業施設・港湾機能の強化
(3) コミュニティセンター、分館など公共施設の修繕	<b>インフラ・防災</b>
(4) 子どもの遊び場の整備	(6) 町会単位での避難場所整備

**凡例**

**●主要機能**

- 学校
- 緑地・広場
- 集会施設等
- 医療福祉施設
- 文化・スポーツ施設
- その他公共施設
- 復興公営住宅整備予定地
- 幹線道路
- 指定避難所・指定緊急避難場所
- 地区界

**●ゾーン**

- 住宅・市街地
- 公園・緑地
- 農地
- 森林

**●地区別意見整理図に記載の意見の分類**

- (1)…ハード事業に関する意見
- ①…ソフト事業に関する意見

住宅  
くらし  
仕事  
インフラ・防災  
交通

⑯ 能登演劇堂周辺でのにぎわいづくり